

# CARILLON カリヨン

日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 学報



「生きる」を支える人になる

秋田赤十字病院でドクターヘリ見学体験（夏のオープンキャンパス2012にて）

## Contents

## 目次

日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 <b>平成24年度「学位記授与式」</b> .....	2~3
■ 卒業生・修了生からのメッセージ ■ 認定看護師制度	
日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 <b>ボランティア活動レポート</b> .....	4~7
■ 被災地に「ババヘラアイス」を ■ サマーキャンプ2012 in クロスヴィレッジ ■ 「聞き書き学校」に入学してきました ■ 上北手地区「敬老会式典」を開催しました ■ 上北手地区「体育レクリエーション大会・上北手小学校大運動会」 ■ 秋田県医療教育センター「クリスマス会」 ■ 「雪かきボランティア」を実施しました	
<b>トピックス</b> .....	8~10
■ 赤十字運動月間イベントを開催しました ■ 台北医学大学訪問 ■ 浅利香津代氏、女優人生を語る ■ 近代化と向き合うブータンの挑戦 ● 学友会活動 ● ゼミ発表会 ● 介護福祉学科長からのメッセージ	
新任教員のご挨拶 .....	11
オープンキャンパススケジュール・入試日程・編集後記 .....	12

2013 No. 3

カリヨンとは：(フランス語：Carillon) 教会の塔などに吊り下げられる音程を異にする多数の鐘。16世紀以来、特にフランドル地方（現フランス領）で発達し、自動装置を持つものもある。赤十字の理念より「人道・博愛・奉仕」を3つの鐘に投影した本学のシンボルとして、平成8年の短大開学時に設置された。これにちなんで本学学園祭も「カリヨン祭」と呼ぶ。

# 祝!卒業・修了 おめでとう!!

平成24年度  
学位記授与式

日本赤十字看護大学が開学して初めての学位記授与式を行いました。



*Congratulations on your graduation!*

平成24年度の「学位記授与式」は、華やかにそして心温まる式となりました。

平成25年3月8日(金)、日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学において学位記授与式(卒業式)が盛大に挙行されました。

日本赤十字秋田看護大学では初めての学位記授与式で、看護学部看護学科の第一期卒業生116名、大学院看護学研究科看護学専攻修士課程の修了生6名、それに日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科の卒業生50名が、それぞれ通い慣れた学び舎を巣立ちました。





看護学部 看護学科卒業  
佐藤 万凜さん  
(秋田赤十字病院 4A病棟勤務)

## たくさんの人との出会いが、私を成長させてくれました。

秋田赤十字病院の4A病棟で働いています。4A病棟は、主に脳神経内科（神経病センター）、呼吸器内科、総合内科の病棟です。在院日数が比較的長く、高齢者や慢性的な疾患のある方が多いのが特徴です。

私は幼い頃に病院で優しく接してくれた看護師に元気をもらったことがきっかけで、苦痛や不安がある人たちの役に立ちたいと思い、看護師を志しました。看護師は患者・家族との関わりや、チーム医療を行うために様々な人たちとコミュニケーションを図ることが重要だと私は考えています。言語的・非言語的コミュニケーションは多くの人たちと関わった大学4年間で学んだ貴重なことで、現在もとても役に立っています。

知識不足や技術の経験不足を痛感する毎日ですが、今後は患者の状態を観察し確実に判断して必要な看護を提供するために、専門的な知識や技術を確実に身に付け実施できるように頑張っていきたいです。



大学院 看護学研究科 看護学専攻  
修士課程修了(助産学研究)  
渡邊 紘子さん  
(秋田赤十字病院 産科病棟 助産師)

## 研究と仕事の両立をやり遂げた経験が、大きな自信になりました。

大学院での二年間は、本当に濃厚な学生生活でした。仕事との両立は思っていた以上に過酷で、勤務の合間や休みの日は大学に通いつめる生活でした。

体力だけでなく、精神的にも負担の大きい生活でしたが、無事に二年間をやり遂げたという経験が、今の私にとって大きな自信となりました。

大学院一期生という先輩のいない大学院生生活の中で、かけがえのない仲間と共に支えあい切磋琢磨しながら学業に励みました。様々な分野に従事する経験豊かな仲間からは、助産学以外の看護に関する多くの学びをもらいました。

これからは修士課程で得られた研究的思考を大切に、修了生一期生としての誇りを持ち、後に続く後輩の良い道しるべとなれるよう、臨床や教育の場で研鑽を積んでいきたいと思っています。

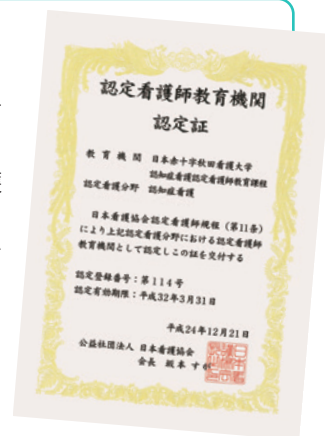
## より質の高い看護を提供するための認定看護師制度

日本赤十字秋田看護大学の設置する認定看護師課程は、平成24年12月に公益社団法人日本看護協会より認可を受け、いよいよ**平成25年8月1日より開講**いたします。

認定看護師制度は、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる認定看護師を社会に送り出すことにより、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかることを目的とし、このたび本学で開講する認知症看護のほか、救急看護、緩和ケアなど21の分野があります。

お問い合わせ／卒後教育開発センター

TEL.018-829-4171  
E-mail.nintei@rcakita.ac.jp





## VOLUNTEER

# 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 ボランティア活動レポート



## 被災地に「ババヘラアイス」を

〈平成24年8月6日・7日／岩手県陸前高田市〉

北林 瞳 (2013年卒)

2011年3月11日の東日本大震災後、私は街頭募金、被災地での炊き出しなど多くのボランティアに取り組んできました。震災から4カ月が経った頃、私は他にも何かできることはないかという思いが強くなりました。

初めて被災地を訪れ、自らも被災者であるにも関わらず、避難所で活動されている方を見て驚きを隠せませんでした。その経験から震災直後から休むことなく、被災した方のために活動している現地の人々に対し何かできる事はないかと感じました。そんな時、大学で支援し続けている岩手県陸前高田市では毎年8月に「うごく七夕祭り」という祭りがある事を知りました。“お祭りなら現地での支援を続

けている人も被災した人も、みんなが元気づけられるのではないか！”その思いから何かできることがあればお手伝いさせていただけないかとお願いし協力することに。そして大学の学生赤十字奉仕団のメンバーを中心に参加者を募り、秋田名物の「ババヘラアイス」を8月6、7日に出店することにしました。

アイスは大好評で、2時間半程で完売。途中アイスのコーンがなくなるといったハプニングはありましたが参加者全員で協力し合い、陸前高田の人々に喜んでもらうことができ

たのではないかと思います。この活動を後輩が引き継ぎ、今後も続けることができるなら大変うれしく思います。

突然の依頼を受け入れて頂いた祭りの実行委員の方々をはじめ、日赤秋田県支部の職員の方々、先生方、一緒に活動してくれたメンバーには本当に感謝しています。



## 日赤キッズクロスプロジェクト 「サマーキャンプ2012 in クロスヴィレッジ」 〈平成24年度 東日本大震災教育支援事業〉



日本赤十字社主催の本プロジェクトは、東日本大震災で被災した子ども達を対象に北海道ルスツリゾートにて実施されました。本学からは69名の学生が参加し、6班に分かれ、「すべては子ども達の笑顔のため」というスローガンのもと、子ども達のグループサポーターとして様々なプログラムに参加しました。

学生1人1人が今の自分にできるこ

とを真剣に考え、毎晩寝る間も惜しんで打ち合わせを重ね、メッセージカード等、様々な「仕掛け」を作成する姿がありました。

キャンプ最終日に子供たちが流した素直な涙が、この5日間、真正面から子どもたちと向き合った学生の努力の成果と感じています。



### 実施時期

- ☆1班…8月 4日(土)～8月 8日(水)
- ☆2班…8月 7日(火)～8月11日(土)
- ☆3班…8月10日(金)～8月14日(火)
- ☆4班…8月13日(月)～8月17日(金)
- ☆5班…8月16日(木)～8月20日(月)
- ☆6班…8月19日(日)～8月23日(木)

過去から未来へ、決して止まることなく流れ続ける時の中で出逢うことができた奇跡、自分以外の誰かを大切に「想う」気持ち、分かり合うために工夫した時間。4泊5日と限られた時間ではありましたが、多くのことを学び、感動を得たキャンプでした。

## 「聞き書き学校」に入学してきました

〈平成24年8月17日～19日／石川県能登〉

地域交流センターの活動の一つに「聞き書きボランティア育成」があります。聞き書きとは「お年寄りの話を聞いて、記録して、後世に残すこと」。語り手には長い人生で味わった楽しかったこと、嬉しかったこと、辛かったこと、悲しかったことを思い出しつつ話してもらいます。聞き書き作家の小田豊二先生は言います、「聞き書きを完成させ、世界でたった1冊の本を作り、相手に読んでもらうと、どの人も感謝します。

そして、聞き手はその感動とともにすることによって、自分がお年寄りからたくさんのことを学んだ喜びを味わうことなのでしょう。そして、なにより、お年寄りが元気になる『瞬間』を共有できるのです」と。聞き書きは、語り手と聞き手とが影響し合う豊かなツールです。

今年の夏は、このツールの奥深さを

学ぶべく、8/17～8/19に石川県の能登で開校された「聞き書き学校」に入学してきました。先にご紹介した小田先生はこの学校の教務主任、校長先生は作家の柳田邦男先生です。全国北は我ら秋田県・南は宮崎県の12都府県から87名が集まり、3日間の集中講義を受けました。初心者の私は、聞く技術の初級編として「語り手の気持ちになって聞く(集中的傾聴)」「話を映像的に思い浮かべながら聞く(映像的想起)」「相手の話に弾みをつ



能登の海



柳田邦男校長先生と修了式後に

ける(共鳴)」「語り手から『学ぶ』姿勢を決して忘れない(好奇心)」ことを学び、聞き書きと看護に通ずるものを実感しました。さらに「聞いた話は語尾・方言・独特の言い回しなど、その人だけの言葉を大切に文章にする」等、講師陣の経験談も交えながら聞き書きの基本的スキルを楽しく学び、無事修了証をいただくことができました。あれから、はや半年以上が経過…まだ聞き書きの実践に取り組めていませんが、将来的には、両親の生きた証を聞き書きとして残したいと考えています。

聞き書きについて詳しく知りたい方はぜひご連絡ください。一緒に聞き書きを学びましょう!

## 上北手地区「敬老会式典」を開催しました

〈平成24年9月2日 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学体育館〉

平成24年9月2日(日)、日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学の体育館にて上北手地区の敬老会式典が開催されました。

秋の恒例行事となった敬老会は、敬老の日を迎えられた皆様のご長寿をお祝いするとともに、これまでの貴重な経験を生かし、豊かな知識を家

族や地域社会のためにお力を注いでくださったことへの感謝の意を込めて、地区社会福祉協議会ははじめ上北手地区の方々が開催しています。今年度は、74歳から98歳までの323名の方々を対象に開催されました。

敬老会式典では、90歳を迎えられた23名の方々へお祝いの「寿鳩の杖」

が贈呈されました。祝宴の部では乾杯の後、アトラクションとして踊りや民謡が披露されました。本学の学生もお祝いとしてダンスを3曲披露し、和やかな雰囲気の中、楽しく参加させていただきました。



和気あいあい



おめでとうございます♪ 盛りアゲますよ!

## 第50回記念大会

### 上北手地区「体育レクリエーション大会・上北手小学校大運動会」

〈平成24年9月9日 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学グラウンド〉



旧上北手村が秋田市に合併したのは昭和29年(1954年)ですが、その直後からこの地区で続いている大運動会の「第50回」という節目の年に本学として初めて参加させていただきました。事前のグラウンド整備、会場設営へも参加し、夏の暑い時期から地域のみなさんとこの運動会を創り上げてきたことがよくわかりました。

当日は、雨上がりの難しい天気でしたが次第に回復し、地域のみなさんと

競技や競技準備の機会などを通じて交流することができました。学生による血圧測定コーナーへも30名を越えるみなさんが来場してくださり、まさしく地域の方々とのふれあいが交流となりました。任意で作成した紅白のポンポンでの応援も好評をいただき、来年度以降も継続して参加させていただきたいと思えます。



手作りポンポンで応援♪



血圧測定の様子



来年はタイヤリレーがんばります!

## 秋田県医療療育センター「クリスマス会」

〈平成24年12月21日／秋田県医療療育センター〉

平成24年12月21日、秋田県医療療育センターにてクリスマス会が開催されました。この企画に地域交流センターのメンバー、看護学部の学生、日赤でかだろのメンバーの上北手地区の地域住民が参加。当日は、サンタクロースとトナカイの衣装を着て、ダンスの披露と子ども達へ、かだろのメンバーと共に手作りした「カエル(手のひらサイズのマスコット)」をプレゼントしました。



記念にパシャ

このカエルは「今年を振りカエル」をテーマとして制作。最後は、本学の宮下教授によるハーモニカの演奏に合



楽しい時間は、あっという間に・・・

わせて、参加者全員で大合唱となり、子ども達の大きな笑い声が絶えない、楽しいクリスマス会となりました。

## 「雪かきボランティア」を実施しました

〈平成25年1月12日・2月16日／上北手地域センター〉

地域交流センターでは、大学のある上北手地区との交流促進のため、夏は地区運動会への参加、冬は上北手地区の雪かきボランティアを計画しました。上北手地区は高齢者世帯が多く、70歳以上の高齢者世帯は約40軒もあると聞き、雪かきなどの重労働が大変な高齢者世帯を中心に実施することとしました。予定は全3回。1月12日(土)、1月26日(土)、2月16日(土)。3回のうち1月26日は暴風雪となり天候不良のため中止しました。

1回目(1月12日)は、学生18名、教員11名等、総勢31名で実施しました。上北手地区社会福祉協議会の役員さんが事前に雪かきの依頼をとってくださり、朝9時に大学に集合、3か所の現場に3班に分かれて行いまし

た。午前中には各班とも終了。その後上北手地域センターに集合し、女性教員が作ってくれた豚汁とおにぎりで労をねぎらいました。2回目(2月16日)も朝9時に大学に集合。学生13名、教員9名等、総勢26名で実施しました。2か所2班に分かれ、前回同様午前中には終了。昼食も前回同様で女性教員が腕を振るい、上北手地域センターでカレーライスをいただきました。



ヨイショ、ヨイショ。



一致団結!!

雪かきを行った家の方からはとてもありがたいと感謝の言葉をいただきました。社会福祉協議会の皆様も、今後もこのような交流が継続され、学生と地域の皆さんが親しくなれることを楽しみにしているとお話をいただきました。参加された学生が、普段慣れない雪かきを苦勞しながらも楽しそうにしていたことが印象的でした。



## 赤十字運動月間イベントを開催しました！！

〈平成24年5月6日 秋田拠点センター アルヴェ1F きらめき広場〉



5月6日、秋田市民交流プラザアルヴェ1階「きらめき広場」で赤十字月間イベントを開催しました。

5月は赤十字の創設者アンリー・デュナン生誕の月、世界赤十字デーなど赤十字にゆかりのある月であることから「赤十字運動月間」と定め、全国各地でイベントを実施しています。

今年子どもたちが赤十字職員と

なり、皆で働き、学び、遊ぶことを通じて親子一緒に赤十字を知っていただく体験型のイベントを行いました。

参加した子供たちは、秋田県内にある赤十字関連の5施設で、それぞれ救護服、白衣、看護衣やエプロンに着替えて、災害救護体験や、医師・看護師、献血業務、保育士などの仕事を体験していただきました。

またステージではけんけつちゃん体操、アンパンマンダンスなどを踊ったり、バルーンアートの方が風船をプレゼントしたりと、盛りだくさんの内容でした。

なお、この活動への取り組みが、全国の赤十字施設における広報活動

への取り組みの中から優秀なものを選んで発表する全国大会「第5回もっとクロス！大賞」において、栄えある全国第1位の金賞をいただくことができました。ありがとうございました。



## 台北医学大学訪問

〈平成24年9月12日 台北医学大学看護学部(台北市)〉

2012年9月12日、宮下正弘介護福祉学科教授を団長とする日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学の代表団5名が、2008年より本学と提携協力関係にある台北医学大学看護学部(台北市)を訪ね、両校の学生交流および学術交流に関する意見交換を行った。今回の訪問は、2012年6月に台北医学大学の教職員代表団が来秋し、本学関係者と意見交換を行った結果を受けての表敬訪問の意味合いもあり、また、同年8月に、台北医学大学看護学部の学生5名を、本学が初の試みとして1週間の研修プログラムを策定して受け入れた結果報告も兼ねていた。

訪問当日は、将来の計画策定に向けて、林佳静看護学部長以下、同校看護学部教授陣と活発な意見交換を

行った後、付属病院や臨床技能センター、老人福祉センターなどの施設を視察し、同校が取り組む遠隔医療や急激に少子高齢化が進む台湾の現状などについて詳細な説明を受けた。加えて、台北医学大学学長との名刺交換や看護学部生と交流の機会もあり、大変実り多い訪問となった。



記念品交換(本学 宮下正弘教授と台北医学大学 林佳静看護学部長)



意見交換を終えて(右から、張綠怡准教授、劉芳准教授、張綠怡准教授、張秀如主任、張佳琪主任、林佳静学部長、宮下正弘教授、井上忠男教授、高橋美岐子教授、宮堀真澄教授、廣渡太郎教授)





## 浅利香津代氏、女優人生を語る

～国際人道法教育フォーラム～



12月18日(火)、平成24年度の国際人道法教育フォーラムが秋田キャッスルホテルを会場に開催され、本学学生、教職員のほか、一般市民の方々など約500人が参加した。

今年のフォーラムには秋田市出身の女優 浅利香津代氏を招き「浅利香津代人生を語る～心から心へ絆の糸を～」と題する基調講演をいただいたほか、本学の宮下正弘教授による「救護の魂ここにあり～日航機御

巣鷹山墜落事故における救護活動～」と題する講演が行われた。

浅利さんは、ご自身の生い立ちから上京して大学で演劇を専攻していた頃の思いを始め、長い女優人生の中で得た多くの

人々との出会いが人生を豊かにしてきたと語り、また社会で生きるための基本的マナーにも言及し、人と人の心の絆の大切さを情熱的に語りかけた。

学生からは「人として生きていく上での人との関わり大切さを知った。」「自分の信念を持ち、強く生きている浅利さんの姿が大きく逞しく見えた。」「周りの人たちに真摯に向き合ってきた姿は素晴らしいと思いました。」「絆という字は心の糸が半分

ずつと書く。看護師を目指す学生も半分、患者さんも半分、心の糸もっています。その糸と糸を繋げる看護を実践していきたいと思いました。」などの感想が寄せられ、参加者は浅利さんのメッセージをしっかりと受け止めていた。

また宮下教授の講演には、「私も知らなかった事故ですが、同い年の女性たちが自分の身を犠牲にして目の前の人と向き合う姿に胸が苦しかった」などの感想が寄せられた。



## 近代化と向き合うブータンの挑戦

～共生社会構築のヒントを求めて～

東日本大震災後の日本を訪れ、被災者らに温かい励ましの言葉をなげかけたブータンのワンチュク国王夫妻は日本国民に爽やかな空気をもたらし、以来、日本はちょっとしたブータン・ブームと言ってもよいだろう。

そんなブータンに東洋大学、東京大学の仏教学、西洋哲学の先生方と8月中旬に訪ねてみた。グローバル化が進む世界は、相互依存を深めつつも一方でイスラム社会対西欧社会の衝突、民族主義の台頭など民族、宗教間の軋轢がエスカレートしている。そうした中で、共生社会を構築するためにはいかなる思想的基盤に依拠すべきか、その可能性はどこに見いだせるかといったテーマで今回調査に訪れたのが「幸せの国」とされるブータン。

独自の幸福指標を持つ同国の宗教指導者らとのシンポジウムを通して、「幸福の民」の日常生活の秘密に迫り、彼らに影響を与えている伝統文化の奥義を探ろうというものだ。

伝統文化と近代化の狭間にあるブータン社会は、結局、多くの途上国がそうであったように近代化の波

に飲み込まれ、自己を喪失していかざるを得ないのだろうか。世界の大きな潮流に抗いながら独自の道を歩もうとするブータンのこれからが大いに気になる旅だった。



## 学友会活動

私たち学友会本部は学生が大学生活をより楽しく、実りあるものとするため学生を代表し、年間で様々なイベントの企画・運営を行っています。行事には年度のはじめに行われるオリエンテーション合宿や3大行事のカリヨン祭、スポーツフェスティバル、クリスマス会などがあります。

オリエンテーション合宿は、新入生を対象にした行事で、入学した学校のことを知りつつ、学年や学科、性別の枠を超えた交流を目的に行われています。本大学はグループ学習が重要視され、様々な人たちと交流・協力していくことも多いことからオリエンテーション合宿は互いを知り、関心を持つよい機会となります。

スポーツフェスティバルは、各学年対抗でスポーツ競技を行います。毎年各学年が優勝を狙い白熱した戦いが繰り広げられ、先輩・後輩の交流の場ともなっています。

最大のイベントであるカリヨン祭は2日間に渡って行われ、各学年やサークルが出店をし、学生たちが趣向を凝らした商品が並びます。また、ステージではミスコンやカラオケ大会、地



域のハーモニカクラブの方々の演奏、軽音楽サークル・ウィンドアンサンブル・ダンスサークルのパフォーマンスなどが行われ、昨年の最終日には歌手のTEEさんにライブを行って頂き大変な盛り上がりを見せました。

クリスマス会は冬休み前の最終講義後に行われ、おいしい料理とお菓子、早食い大会、ダンスサークルのパフォーマンス、抽選会など楽しい企画が目白押しで参加者の方たちに変な喜んで頂けました。

昨年度は行事が成功した反面、改善すべき点も多くありました。今年度の学友会活動では、より良い方法を模索・改善し、昨年度以上に学生皆が楽しみ、快適なスクールライフを送ることができるような企画・運営をしていきます。今年度も応援のほどよろしくお願いたします。

## ゼミ発表会



介護福祉学科の2年生が25年1月31日(木)、2月1日(金)の両日にわたり、301教室でゼミナールレポートの発表会を行いました。ゼミナールレポート発表会は、学生がまとめた研究成果を他の学生にも理解してもらうだけでなく、発表の具体的方法を学ぶために毎年実施しているものです。

発表時間は1人6分で、学生自身がパワーポイントを作成し、発表に臨みました。発表後には、およそ2分間で質疑応答が行われましたが、中には教員や学生からの質問が集中し、時間を超過する場面も見られました。発表会の最終日には、全教員から発表に対する講評が行われ、日程が全て終了しました。

発表会を終えた学生は、「時間内に発表できなかった」、「質問に適切に返答できなかった」と反省したり、「写真や絵を使い工夫できた」、「他の発表が参考になった」と満足したり、結果に違いはありますが、それぞれに学びの収穫があったようです。

## 介護福祉学科長からのメッセージ



日本赤十字秋田短期大学  
介護福祉学科長

### 高橋 美岐子

## 「人道」の理念を生活支援へ 利用者と“共に生きる”介護福祉士

これからの超高齢社会を国民が安心して生活できるよう、介護サービスの中心的担い手である介護福祉士には、利用者個々のニーズに適切に応え、多様な生活・生き方を支援する質の高いサービスの提供が求められています。

本学では、赤十字の「人道」の理念と、介護福祉の「人間の尊厳」の価値理念に基づき、一人ひとりの幸福の実現のために、人の生き方・その人らしさを大切に、関わる人々と“共に生きる＝with”ことのできる人材育成をめざしています。また、本学の教育を特徴づけるものとして「災害福祉論」「ゼミナール」などの科目を設定し、介護福祉士に求められる思考力・判断力・実践力を養うことをめざしています。さらに、多様な事業所・施設における実習を通して、利用者個々のニーズに応え得るケアを展開するための教育の充実を図っております。

本学では、毎年進路ガイダンスを実施し、在学生が卒業生から直接進学・就職に関するアドバイスをいただく機会を設けており、進路決定の参考となっています。学生自身が将来の進路を早期にイメージでき、明確な目標をもって学生生活を送ることができるようサポートします。

本学での学びを通して、「人道」の理念を生活支援へと具現化することのできる専門職をめざしてみませんか。皆様のご入学を心よりお待ちしております。

## 「生きる」を支える人になることを目指す皆さんを 心より歓迎いたします

日本赤十字秋田看護大学  
日本赤十字秋田短期大学 学長 安藤 広子



今日の社会は、少子高齢化、天災・人災による生活環境、高度医療の導入や医療体制等の課題があり、看護・介護福祉に対する期待が大変大きくなっています。

日本赤十字秋田看護大学は、赤十字の「人道：Humanity」の精神を受け継ぐ東北地方の赤十字看護大学として、2009年4月に開学しました。そして、2011年4月に大学院看護学研究科修士課程を開設し、2013年8月からは認定看護師（認知症看護）教育課程を開講いたします。

また、日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科は、日本赤十字社の教育機関では全国で唯一の介護福祉士養成施設として1996年4月の開学と同時にスタートしました。本学の前身は、1896年（明治29年）日本赤十字社秋田支部救護看護婦養成に始まり、卒業生からは看護師最高の栄誉とされるフローレンス・ナイチンゲール記章の受賞者3名を輩出しています。

本学で学習することにより、赤十字精神の涵養、災害時の支援活動・人命救助法、ボランティア活動の実際、国際交流活動を通じて、自ら問題に「気づき」解決方法を「考え」解決に向けて「行動する」、主体的な問題解決力を培うことができます。

本学は世界に広がる赤十字の教育機関として、皆さんが秋田というローカルを拠点に学習しつつも、グローバルな視野に立ち行動・活躍できるように支援いたします。

### 新研究科長よりご挨拶

## 高度な実践力を持つ専門職業人 専門分野をリードする研究者を育成



日本赤十字秋田看護大学大学院  
看護学研究科長 飯島 純夫

皆さんが何か疑問や興味を持ったとき、それを調べて解決したいとは思わないでしょうか。研究とはそういうところから始まるのです。日頃の活動をしながら感じたこと、興味を持ったことなどを解決したいと思ったとき、是非大学院の扉をたたいてください。

本学の大学院には4つの専攻分野があります。すなわち、基盤看護学分野（食看護学、感染制御学）、がん看護学分野（がん看護学CNS教育を含む）、健康生活支援看護学分野（小児看護学、成人老年看護学、地域看護学）、助産学分野（助産師国家試験受験資格取得コースを含む）の4分野です。

何か困ったことやわからないことがあれば、教員が相談に乗ります。研究に対して漠然と不安を持っている方でも大丈夫です。さあ、一緒に研究をしてみましょ。私たちは皆さんが大学院に入ってきてくれることを心から願っています。

何か困ったことやわからないことがあれば、教員が相談に乗ります。研究に対して漠然と不安を持っている方でも大丈夫です。さあ、一緒に研究をしてみましょ。私たちは皆さんが大学院に入ってきてくれることを心から願っています。

### 新学部長よりご挨拶

## 人々のいのちに寄り添い 気づき・考え・行動する看護職者へ



日本赤十字秋田看護大学  
看護学部長 宮堀 真澄

本学は、明治29年に日本赤十字社秋田支部において救護看護婦の養成を開始したのを源とし、110余年の長い歴史があります。この間一貫して赤十字の理念とする人道に基づき、人の命を守り、人の尊厳と権利を尊重する教育を行ってきました。これまで培われてきた”赤十字のこころ”を継承し、少子高齢化、疾病構造の変化、高度医療等国内外の社会の変化に伴う看護ニーズを認識し、これらに対応できる保健・医療・福祉の向上に寄与できる看護専門職の育成をめざしております。

看護職は、人々のいのちとこころに寄り添うことのできる豊かな人間性と科学的思考を育み、主体的・創造的な看護実践力が求められます。皆さんの持っている可能性を最大限引き出すよう教育体制とサポート体制を整えております。

「生きる」を支える人になる。一緒に歩みましょう。

平成25年度  
**オープンキャンパス  
 スケジュール**



**今年も「オープンキャンパス」&「カリヨン祭」開催！  
 本学の「学び」と「楽しさ」をぜひ体験してください。**

日本赤十字秋田看護大学・短期大学のオープンキャンパスでは「学び」を体験できるイベントが満載です。体験学習や模擬授業、在学生によるキャンパスツアー、ドクターヘリの見学など、大学を体験できるイベントや、説明会も実施。保護者の参加も大歓迎です。みなさまお誘い合わせの上、お越しください。

<p><b>夏のオープン キャンパス</b></p> <p><b>7月20日(土)</b> 10:00~15:00</p> <p>看護学部 看護学科 介護福祉学科</p>	<p><b>秋のオープン キャンパス</b></p> <p><b>9月28日(土)</b> 9:30~12:30</p> <p>看護学部 看護学科 介護福祉学科</p>	<p><b>カリヨン祭</b></p> <p><b>9月28日(土)~ 29日(日)</b></p> <p>看護学部 看護学科 介護福祉学科</p>
---	--	--

※オープンキャンパスには事前申し込みが必要です。※日程・会場・時間は、変更になる場合があります。

平成25年度  
**入試日程**



■日本赤十字秋田看護大学 看護学部 看護学科

- 推薦・社会人学士等入学試験 …………… 平成25年11月9日(土)
- 一般入学試験(センター試験利用入試) …………… 平成26年2月15日(土)

■日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科

- 推薦・社会人学士等入学試験 …………… 平成25年11月9日(土)
- 一般入学試験 …………… 平成26年2月15日(土)
- 大学入試センター試験利用入試 …………… 平成26年2月15日(土)
- 自己推薦入学試験Ⅰ期 …………… 平成26年2月22日(土)
- 自己推薦入学試験Ⅱ期 …………… 平成26年3月15日(土)

■日本赤十字秋田看護大学大学院 看護学研究科 修士課程

- 修士課程Ⅰ期 …………… 平成25年9月21日(土)
- 修士課程Ⅱ期 …………… 平成26年1月25日(土)

■認定看護師教育課程 認知症看護認定看護師コース

- 出願期間 …………… 平成25年8月5日(月)~16日(金)
- 試験日程 …………… 平成25年9月7日(土)

入試に関するお問い合わせ・・・(大学・短期大学) TEL:018-829-3759 (入試・学生係)  
 (大学院・認定看護師) TEL:018-829-4171 (大学院担当・卒後教育開発センター)

オープンキャンパス・入試日程の詳細情報は本学の公式サイトをご覧ください。

<http://www.rcakita.ac.jp/>

**編集後記**  
 Editorial Note

短期大学の開学から18年、看護大学が開学して4年が経過しました。この間、大学関係者の間ではUSR (University Social Responsibility=大学の社会的責任) という言葉が登場しています。

大学が社会環境の変化に的確に対応していくためには、大学を取り巻くステークホルダー (利害関係者=たとえば学生、保護者、後援会、国、地方公共団体、評価機関、地域住民、公開講座受講者、教職員、受験生、高校、予備校、卒業生、就職先など) と

のコミュニケーションを深め、そのニーズや課題を確実に把握していく必要があります。本学の広報を担当する私たち情報・広報委員会でも、パンフレットなど各種印刷物や公式サイト・SNSなどの各種ツール、またオープンキャンパス・進学相談会・ガイダンス等の機会を通じて、ステークホルダーとのコミュニケーションを深める努力をしまいたいと考えています。

今後なお一層のご支援、ご協力、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。